揖斐郡教育研修センター通信　⑤　R3.6.24

揖斐郡教育実践論文に多くの先生方に応募していただきました

本年度の「揖斐郡教育実践論文」に郡内の多くの先生方から応募いただきました。
実践論文の応募では「教育の基本的な課題をふまえ、小中学校の教育現場に密着した継続的・累積的な実践研究論文の募集及び検証を通して揖斐郡教育の振興を図り、教職員の専門性を高める。」という実践論文の願いに基づいて広い年代層、幅広い領域について募集をしていただいております。

（1）　令和３年度揖斐郡教育実践論文の総応募数・・・４６点

（2）応募者の年代層

応募者の年代	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代
応募人数	２６人	１４人	２人	２人	２人
応募者に占める割合	５７％	３１％	４％	４％	４％

- 全体の応募者のうち、２０代、３０代の先生方のしめる割合が９０％近く、児童生徒のために自己の指導力を高め、積極的に実践に取り組む若い先生方の意欲が感じられる。
- ４０代以上の先生方では自分の経験や過去の実践に基づいて更に研究実践を深めようとする思いが感じられる。

（3）　応募者の経験年数

応募者の年代	３年以下	４年～６年	７～１４年	１５～２４年	２５年以上
応募人数	２４人	９人	７人	３人	３人
応募者に占める割合	５２％	１９％	１５％	７％	７％

- 令和２年度及び令和元年度に初任者として現任校に赴任した２年目、３年目の教員のキャリアステージで基礎形成期にあたる先生方が積極的に応募している。
- １校完の先生方や経験得年数が１５年未満の資質向上期にあたる若い先生方が、今までの実践を踏まえ、自分の実践をまとめることで自己の指導力を高めようとする意欲が感じられる。
- 経験年数が２５年を越える資質充実期及び資質貢献期の先生方にも、活力ある学校経営や広い視野から研究に取り組もうと応募している。

（4）　応募論文の研究領域

領域	人数	テーマとして取り上げられている内容
国語	１人	自分の考えを表現する
社会	２人	地域から学ぶ社会科学習　　接続可能な社会づくりの担い手の育成
算数・数学	３人	知識・技能の定着　　自立的・協同的な問題解決 ICT を活用した授業
理科	３人	多面的に事象をとらえ探求する　　見えない物を可視化する教材開発 主体的・深い学びから科学的な思考力を高める
生活科	１人	地域への誇りや愛着
音楽	２人	楽しく豊かに音楽と関わる　知覚・感受をもとに豊かに表現する
保健体育	３人	仲間と問題解決し運動の喜びや楽しさを実感する 運動の楽しさや喜びを味わう　仲間と共に課題解決する小集団学習
図工・美術	１人	モダンテクニックの特性
外国語・英語	７人	仲間のよさを取り入れ自己の表現をよりよいものにする コミュニケーションストラテジーの継続的指導 自信をもって表現できる児童の育成 できたを実感し、豊かな表現力を培う　リテリングとレイティング能力

		継続的な対話活動と発信力　　自ら進んでコミュニケーションする
道徳	５人	考え議論する道徳の時間　　多面的・多角的な考えを引き出す 多様な価値を出し合う　　多面的な価値に触れ、自己を深く見つめる 他者とよりよく生きようとする児童の育成
特別活動 学級経営	３人	自己肯定感を高め、主体的に活動する　　互いに関わって学び合う 互いに認め合い高め合う集団づくり
特別支援・ 通級指導	７人	社会で生きる力を育む　　一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援 自ら考え意欲的に学習する　　ＩＣＴを活用し児童の意欲を高める支援 困難さを抱えた児童の支援　　自己肯定感を高め、生き生きと活動する 他者との関わりで正しい言語感覚を身に付ける
国際理解教育	１人	多面的な視点で世界を見る児童の育成
健康安全教育	１人	生涯にわたり自己の健康を守れる児童
ＩＣＴ 情報教育	４人	ＩＣＴを活用した授業改善　　タブレット等を有効に使う学習者 個別最適な学びと協同的な学びの充実　　ＩＣＴを活用し主体的に学ぶ
カリキュラム マネジメント	２人	自信をもってふるさとを語る児童 主体的・探求的に研究を推進するチーム作り

※実践論文の領域については複数領域にまたがるもの等もあるため、提出された応募表をもとに整理・分類してあります。（今回正式なテーマを提出いただきましたが、論文提出の際に領域・テーマは再確認します。）

- 教育実践論文の募集要項で「今日的課題をふまえた継続的・累積的な研究」であり、領域として教科指導、道徳教育、特別活動、総合的な学習、生徒指導、進路指導、健康教育、特別支援教育、学級経営、ＩＣＴ活用、教科横断的な指導、カリキュラム・マネジメント等を上げたが、過去の実践論文の応募に比べても、多領域に研究テーマがわたっている。
- 以前に比べて単独教科によるテーマが減少し、ＩＣＴの活用やカリキュラム・マネジメント等の広い教科領域に関わる教科横断的なテーマが増えてきている。
- 新学習指導要領で大切にされている「社会で生きて働く知識・技能」、「未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力、人間性」や「主体的・対話的で深い学びのある授業」、「カリキュラム・マネジメント」、「社会に開かれた教育」などのキー・ワードをうけ「今日的な課題」を踏まえたテーマが取り上げられてきている。
- 従来に比べても児童・生徒が生きていく「ソサイエティ５．０」で必要となる力と目の前の子どもたちや日常の教育実践をつなげて考える「社会で生きて働く力」を育てようとするテーマが増えてきている。
- 地域とのつながり、ＩＣＴ活用、人との関わり、コミュニケーション、学ぶ喜び、自己肯定感などを大切にしようとする研究が増えてきている。

今後の実践論文についての取組

①　締め切り　　<u>令和３年１１月２２日（月）</u>
②　揖斐郡教育研修センター担当あてに<u>紙媒体及びデジタルデータの両方を提出</u>する。
③　審査について
- 審査委員会で１次審査と２次審査を行い、優秀な論文を選出する。
- 審査委員会の構成
  審査委員長（県教研評議員）　審査委員　（揖斐郡教育研修センター運営委員等）
- 第１次審査（令和３年１１月３０日(火)）入選候補作品の選出
- 第２次審査（令和３年１２月　３日(金)）入選論文の決定と、「優秀賞」候補作の選出

④　備考
・過去に入選３回以上の実績があり、本年度応募した実践論文においても特に優れていると認められる者については、「特別賞」として顕彰する。
・実践論文受賞者の表彰及び優秀作品による研究発表はオンラインで実施する。（詳しい実施方法については後日連絡します）
・応募者氏名および研究主題名等は、一覧表を作成して掲載し、メールにて各校に発表する。
・優秀・入選・特別賞論文については後日「教育研究実践論文集」にまとめて各学校等へ配付する
・優秀論文のうち数点は、岐阜大学同窓会研究論文募集に応募する。